

Vol.2 「新春！正月の東京練馬で感じた自転車風景」

年末年始に1週間ほど東京都練馬区の光が丘周辺に帰省した際、自転車を取り巻く環境や自転車利用者の文化行動で2点ほど新しい変化を目にしたので、お伝えします。昨年配信のメールでは、皆様に、警視庁が自転車利用者の交通安全マナー啓発のための取締りを開始し始めている旨をお伝えしました。実家の練馬区でも、並走等、これまでは見過ごされていた走行違反にも、積極的にイエローカードを配布しつつ指導を実施、最近も道路上でマナーやルールの徹底を呼び掛けている姿が見られます。

さて、今回は・・・1つ目は、公園周辺の車道への新たな自転車通行帯の設置です。この3カ月以内に設置されたと思われる走行帯。利用者認知も進んでいるようで様々な自転車ユーザーが、整然と通行する様子が見られました。

後述しますが、この光が丘地域は、現在も自転車利用者が急増している地域だけ



に、こういったインフラ設備の早急な充実は不可欠と感じます。今後も引き続き計画的に、こういった有効な専用帯がつながり増加していくことを、故郷の練馬に望みたいと思います。

2つ目は、光が丘公園内の広く平らなアスファルト場所での、キックバイク（児童用足付き自転車）の子ども走行練習会が実施されていたことです。

これまで数十年、光が公園内のその広い空間では、土日など、中学生～大人のBMXやスケボーのフリー스타イラー数人ほどが、簡単なセクション等を置いて練習している姿しか見ることはありませんでした。

一方、今回は、幼稚園ぐら



いから小学生低学年辺りの親子連れ 50 名ほどが、色とりどりのコーンを置いてコースを簡易設定し、ヘルメットを装着し、本格的にキックバイクの走行を楽しんでいる児童の姿に遭遇しました。見た目には、キックバイクのレースに出ている子どもたちの練習会（スポーツ走行会）のようにも見受けられましたが、しっかりとコースを設定し、ヘルメットなどの装備も万全に楽しんでいる姿は、正月の澄んだ空気の中、とても微笑ましく観望させてもらいました。当方の時間があまり無く、練習会の経緯などを伺えなかったことは少々残念です。

一応、都の公園敷地内ということで、公的に認可を受けてものか、家族同士仲間内での随意発生的なものなのかは不明ですが、スポーツ走行・交通安全教育・基礎的自転車のりかた訓練の如何を問わず、人が生き生きと暮らす為の今後の交通文化・のりもの文化の土台作りには、子どもたちが、走行ルールを決めた上で、思う存分ライディングを楽

しめる空間も必要だなと感じました。私が中学生時代に整備された光が丘公園の新時代を見た気がします。

さて、このレポートの舞台となっている東京都練馬区 光が丘は、昭和 40 年代迄は、畑や林の多く残された地でありました。現在も緑豊かな先述の「光が丘公園」は、戦前は騎馬隊の練馬場、太平洋戦中は日本軍の飛行場・戦後は米軍の基地として「グラン

ト・ハイツ」と呼ばれ、そして昭和 40 年初頭に日本に返還後は、緑豊かな公園として区民の憩いやスポーツの場となってきました。私も小学生の頃、米軍が去った後の広大な草原の傾斜地に忍び込み（当時は 立ち入り禁止の柵で覆



昭和 30 年代の米軍住宅の光が丘 出典:練馬区

われ、破けたところから子どもたちが違法侵入を繰り返しておりました。ごめんなさい!) 友だちと実用車で B M X 遊びに興じていた時代を懐かしく思います。また、公的利用が可能となってきた小学 3 年生の頃、日本軍使用の飛行機格納庫の大きくて低い楕円形のコンクリの屋根



昭和 40 年代の格納えんたい壕 出典:練馬区

に自転車を押し上げ、みんなでダウンヒルを楽しんでいたことも!? あります。その頃に得た自転車のバランス感覚は、後に、オートバイや自動車での安全走行やスポーツ走行でのバランス感覚のベースとなったように思います。

そして現在、埼玉県との県境が隣接するこの周辺には、地下鉄が 2 本も伸び、東京中心部へ電車で 10 分・自転車 30 分で通勤可能なベッドタウンへと成長。公園として快適に整備された広大な光が丘公園を中心に今も緑が多く残されておりますが、人口も増加の一途をたどり、周辺にはマンション群が立ち並んでいます。周辺は比較的平らな地形

も多く、マイカー駐車場料金も高騰していること等から、通勤・通学・買い物での自転車利用者は、年々増加の一途をたどっております。商業施設の前は、自転車専用の置き場が、車社会の愛知県郊外では考えられない規模で設置されており、そこには、おびただしい数の自転車・・・子ども乗せ用の電動自転車等が駐輪されています。

帰省や出張のたびに、歩道や車道での自転車利用者の数と、大人も子どもも、走行ラインも様々で自由活発！？な走行の様子に、早急にルールやマナーの徹底や、走行帯の設置等のインフラ整備の必要を実感する風景を目の当たりにしています。

戦後、経済活性化、生活の安定に伴い白物家電での生活の便利化、そして、工業が牽引した高度経済成長に伴い、各家庭に登場した3種の神器も、洗濯機・冷蔵庫・白黒テレビから、新3種の神器／カラーテレビ・クーラー・自動車へと変遷。現代の自動車あたりまえ社会へと続く経済やそれを支えるインフラ発展は、確かに私たちの生活を便利で豊かなものにしてくれました。

そして現代、エネルギーの使い方や人間の能力の使い方を、もう一度見直さざるを得ない時代に突入。こういった時代だからこそ、道の有り方をとらえ直したり、乗り物を楽しく安全に利用する為の人間教育を充実させたりすることが、日本の交通社会と、のりもの文化のために、とても大切なことなのではないかと思うのです。

以上、お読み頂き誠にありがとうございました。

2015年が、私たちにとって素敵な一年となりますよう

みんなで力を出し合い、少しずつでも前進してまいりましょう！

本年もよろしくお願い申し上げます。

2014 1/17 OSCN代表 片山 昇

東京都光が丘公園⇒ <http://www.tokyo-park.or.jp/park/format/index023.html>